



No.120
2024.3.15

SFA NEWS



- ① … 審判座談会 中村太氏を囲んで～ 中村太氏、Jリーグ最優秀主審賞受賞！
- ② … 木村滋・県審判委員長に聞く～「審判委員会の今とこれから」
- ③ … 戸田市サッカー協会の試み、南部審判委員会の取り組み～どう育てていくのか？
戸田市サッカー協会 審判部長 服部 旭（2級）
- ④ … アクティブレフェリー～「育成」ではなく「体験」の場を 伊藤実奈子さん（女子1級）
- ⑤ … アクティブレフェリー～ 目指せ、1級 原田一輝さん
- ⑥ … 審判にあこがれてもらうには SFA副会長 岡田 泉

- ⑦ … 第17回埼玉県第4種サッカーリーグ・選手権大会 ヴィオレタフットボールクラブが初優勝！
- ⑧ … 大会記録●県内大会 2種・3種中体連・クラブ
- ⑨ … 大会記録●県内大会 3種クラブ・4種
- ⑩ … 大会記録●県内大会 女子 ●県外大会 1種大学・2種
- ⑪ … 大会記録●県外大会 2種・高体連・3種
- ⑫ … 大会記録●県外大会 4種・女子・シニア
- ⑬ … 大会記録●県外大会 シニア・フットサル インフォメーション

●発行/（公財）埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 シャトー雁ヶ音204 Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

～審判座談会 中村太氏を囲んで～

中村太氏、Jリーグ最優秀主審賞受賞！

「2023Jリーグアウォーズ」は記憶に残るものとなりました。埼玉県協会所属の中村 太さんが、最優秀主審賞を受賞されました。今回は、中村さんと元1級審判でJリーグでもご活躍された前之園晴廣・SFA 審判委員会副委員長と対談をしていただきました。中村さんの受賞の喜びから、ここまでの振り返り、そして日本サッカーへの提言まで幅広くお聞きました。また、特別インタビューアとして、ユース審判の酒井星南さん（与野高校）にも入ってもらい、より「審判」に興味・理解を深めていただける内容となりました。（司会・構成／荒川裕治【広報・技術・女子委員】）

私自身はギャップを感じています

——中村さん、おめでとうございます。

中村 ありがとうございます。今まで自分に関わってくださった皆様のご協力のおかげで、このような受賞となりました。本当に皆さんへの感謝の気持ちが強いですね。

特に、前之園先生、安元先生（利充氏・大宮高校）が、ずっと1級審判として引っ張ってくださりました。教員という仕事も兼業しながら「あるべき姿」というのを私たちに見せ続けてくれたので、そこは本当に大きいなと思っています。さらに前之園先生の場合は、管理職の道に進まれるなど本当に私の人生にとって大きいお手本でした。本当に感謝しています。

——今回は、その前之園さんにも参加していただいています。前之園さんから、お祝いの言葉をいただけますか。

前之園 おめでとうございます。本当にうれしい、というのが率直な感想です。自分のことのようにうれしく思います。ぜひ、埼玉から中村さんに続く審判が出てきてほしいですし、中村さんには続けて受賞していただきたいですね。できれば、私はいただけませんでしたが、副審部門でも埼玉の審判員が受賞してくれて、ダブル受賞してくれるといいなと思っています。

中村 ありがとうございます。

——今回、受賞されたポイントはというとどこでしょうか。ご自身ではどのように自己評価されているのでしょうか。

中村 今まで積み重ねてきたものにプラスして、プロフェッショナルレフェリーを統括されている東城稯さんや佐藤隆治さんからアドバイスされたことを、自分なりに整理できたことが一つのポイントだったと思います。

ただ、今回の受賞はいろいろなタイミングが重なった結果だと思っています。今シーズンは、ルヴァンカップの決勝など難しい試合のときに、国内に国際審判員がいなかったという状況がありました。そうしたタイミングで「誰が主審をやるか」となったときに、僕に割り当ててくださったということが重なっての受賞だと思っています。実の



中村 太氏

ところ、去年の自分のパフォーマンスがリーグの中で一番良かったとは思っていないので、私自身はギャップを感じているというのが正直な気持ちです。自分の中ではまだまだ、やらなければいけないことが沢山あると思っています。

——こういう謙虚なお言葉がありました。前之園さん、いかがでしょう。

前之園 安心、安定感が増したと思いましたね。体が大きいというストロングポイントを活かしながらも、さぼっていないですね。一生懸命走るとかひたむきな部分も見えているし、選手に対しての気遣い、コミュニケーションもすごく上手くなっていると思いました。選手と一緒にになってゲームを作っているなと思う試合が続いていましたね。

——ありがとうございます。さて、ここでスペシャルゲストとして、ユース審判の酒井くんにも一言いただいております。酒井くん、あとで質問タイムを設けますが、ここで中村さんへ一言いただけますか。

酒井 与野高校1年生の酒井星南（せな）です。よろしくお願いします。レッズとアルディージャの試合は、家族でよく観戦に行っています。日頃から中村さんが担当される試合は注目していますが、実際に目の当たりにしたときには本当に中村さんのレフェリングの様子を見えています。すごいなって思いながら。

当たり前のことなのでしょうが、選手間で問題があったときなどの落ち着かせ方などマネジメント能力は、自分のレベルとは違い、本当に上手だなと思っていますし、尊敬しています。

——尊敬しているとのことですね。

中村 うれしいですね。

どれだけその瞬間を正確に把握できるか

——中村さんは、誰からも応援されているんですね。

さて、いくつかこちらから質問させてください。年々、ジャッジそのものの難易度が上がっていると思います。VARも入り、DAZNではジャッジの番組までできています。具体的にはどういう点が難しくなっているのでしょうか。サッカーそのものの質がテクニカルよりもフィジカル重視になって、レフェリングが本当に難しくなっていると思っていますが、いかがでしょうか？

中村 やはりVARの導入でしょうか。私たち審判は、ピッチ上で自分が見たものを根拠に判定しています。つまり、ゲームにおいて審

判員は4人いるので、その4か所から得た情報でしか判定することできないということです。しかし、VARが導入され、スタジアムにカメラが10台以上設置されるようになり、私たちが現場で見たものとは違う角度からの映像があるわけです。ときには、僕らがピッチ上で見て、感じたものとは全く違う映像が出てくることもあり、映像を見た方との認識の差が結果的に試合後の反響に現れることもあります。

また、サッカーそのものがスピーディーで力強くなった結果、接触の瞬間そのものが、より早くなってきている部分もあると思います。だから、私としてはピッチ上でどれだけその瞬間を正確に把握できるかという部分が、これまで以上に求められているとすごく感じています。

これまででは、そのときの試合の温度や選手のリアクションなどである程度レフリーに委ねられた部分があっただけと思うんです。もちろん最後は主審の主観なんですけど、今はその映像が切り取られて出てきてくる時代なので、その瞬間をどれだけ自分で見に行けるか。判断する情報としてしっかりつかめるか。今まで以上に精度を高めていかないと、正しい判定には結びつかないと思いますね。

——となると、当然でしょうが、VAR絡む回数が少ないゲームがいいゲームと思ってよろしいのでしょうか。

中村 もちろんそうだと思います。試合前には「VARがないように僕たちで終わらせよう。4人で、しっかり終わらせよう」という話を毎回しています。

——結局、VARが入ることによって、いろんなタイムラグが生まれますよね。プレーヤーの集中力の問題もあるでしょう。ゲームマネジメントを考えたときには、微妙に影響するんじゃないかと思うのですが。

中村 正直な話をすれば、とはいえ、VARがあるからこそ、最後の最後で選手は私の判定に納得してくれる面もあるんですね。VARにかかる時間、私もVARを担当することがありますが、正確にチェックしながら、どれだけ短くできるのかがポイントだと思います。

逆に現場でも、なるべく選手にストレスが溜まらないように、今何をチェックしているとか、コミュニケーションを取りながら理解してもらおうというのは、私たちの腕の見せ所でしょうか。やはりVARをツールの一つとして使っている以上は、現場にいたらそれをうまく使えるようにならなきゃいけないと思っています。

また、逆に最後のところで僕らがどうしても見えない部分を見てくれている、大きなミスをなくしてくれるツールと考えれば、セーフティネットじゃないですけども、そういう存在であることは確かです。最終的に選手や監督、サポーターの皆さんにとって、受け入れられない判定がなくなれば良いと考えていますので、VARの存在は決してマイナスだとは思っていません。

前之園 VARの導入前に引退したものですから、VARの是非に関してはなんとも言い難いですね。ただ、自分であれば、VAR介入しないように、されないようにしなきゃいけないなっていう思いを持って臨むと思います。ただ、三苫選手の1mmまでは無理ですけどね(苦笑)。でも、見極めてやろうという思いは必要ですね。

自分のことで振り返ると、私は副審担当でしたから、どちらかというと

と主審よりも外にいて、その現象を引いた絵で見えていました。現象そのものに入り込んでいないから、主審に対してアドバイスができたのではないかと思います。思い込みや決め打ちをすると判定がぶれてしまいますし、選手とのコミュニケーションそのものが変わってしまうこともあります。



前之園晴廣氏

ただなんというか、なんでもかんでも「VARがあれば」ではなく、サッカーという競技がどういうものなのかを忘れずに楽しんでほしいですね。

——ありがとうございます。審判の存在意義が問われるところでもありますね。

ここで話をを変えてください。これまでで忘れられないエピソードとかありますか？

中村 Jリーグ担当のデビュー前に、天皇杯でヴェルディとゼルビアの試合を担当したんですよ。まだゼルビアがアマチュアだった頃での東京ダービーでした。その試合で、ヴェルディの選手二人を退場にさせて、結果的にヴェルディが負けたんですよ(2010年 第90回天皇杯全日本サッカー選手権大会 2回戦。1-0でゼルビアが勝利)。多分、私としては初めてプロの選手たちを裁く試合だったと思います。

試合が終わって、控室に戻るときにスタンドにいた観客の方から紙コップに入ったコーヒーを投げつけられ、その後ペットボトルが飛んできたんです。そのときに「大変な世界に飛び込んでいくんだな」と思いました。

その後もいろいろな経験をしてきた中で、試合に関わる全員が私の判定を受け入れてくれるにはどうしたらよいかということを常に考えるようになりました。例えば選手を退場させるときにも、退場していく選手が納得をしてピッチを去ることができるような、自分の振る舞いやポジショニング、試合全体の流れなど様々なことをもっと突き詰めていかなくてはいけないなと思っています。退場していく選手が、「(主審が) 散々声かけてくれたよな」「注意してくれたのに止まらなかったな」とか振り返って、仕方ないと思ってピッチを後にしてもらえるようになりたいですね。

前之園 スタンドからモノを投げ込まれるって辛いですね。

中村 19時キックオフ、試合が終わったのが21時。スタジアムを出ることができたのが……0時でしたね(苦笑)。そんな話もあれば、審判みんなで普通に駅まで歩いて帰ったりすることもあります。ただ、環境は昔よりも良くなっているというか、審判というものに対して理解をしてくださる方も増えてきているかなと思います。実際に私たちに「一緒に写真撮ってください」と言ってくれる方もいらっしゃるの、そういう方の存在は大きいですね。

——ありがたいですね。それだけ審判の方たちも近づいてきていただいていますし、「仲間」意識というのも出てきつつあるからでしょう。埼玉県内にもそういう理解が浸透していってくれるといいな、と思いますね。

切り換えの速さだったり、状況判断などのスピード感が違う

——少しブレイクを入れたところで、今回敢えて「日本サッカーの課題」をお聞きしたいと思います。トップレフェリーとして、どう感じていらっしゃいますか？ 重要な試合を担当することが多くなり、考えることや実際試合中に見なければならないことが増えてきていると思います。そういう中でトッププレーヤーたちのすごさに驚くこともあるでしょう。逆に「残念」と思うこともあるでしょう。日本のサッカーのものの進化状況と、もう一つ上に行くために求めていきたいものがあれば教えてください。

中村 昨年、一昨年とパリ・サンジェルマンやインテル、そしてアル・ナスルが来日した試合を担当させていただきました。

これまで日本人選手というのは勤勉さがあって、運動量も多く、その上細かい技術力も高いというイメージを持っていました。しかし、「興行」として連日Jクラブと試合をしているパリ・サンジェルマンの選手が、各試合で運動量でも随所のスピードでも日本人選手を圧倒していくんです。もちろん、もともとのアスリートとしての身体能力が高いのですが、切り換えや状況判断などのスピードがとてつもなく早いと感じました。逆に日本としても、そういう部分はこれ

からも伸ばせるのではないかとと思っています。ただ、どういう練習をすればいいのかまではわかりませんが(苦笑)。

後で試合を思い返すと、海外チームのプレス時の連動やチャンス時のスピード感など、ここぞという時の迫力がとても強く印象に残っています。

前之園 面白いですね。わざわざ興行で来日して楽しそうにやっているんですね。でも若手を起用したりして、トップチームへ昇格させようとかの狙いを持っていますよね。だから一生懸命なんですよ。

中村 その部分は、サッカー理解というか、チームとして勝つために必要なことが明確になっているんじゃないですか。

—— その部分って、プロになったらいきなりできるようになるとか、飛躍的に伸びることではなくて、4種、3種、2種というつながりの中で鍛えられているものというが磨かれていくことだと思います。

前之園 (ボールを)取られたら、絶対取り返すというところですね。チームでもそう、個人でもそう。当たり前のことだし、もともとみんな負けず嫌いというのもあるんじゃないかな。

ただ、そもそも味方の選手同士の距離感がいいから、すぐに取り返したりできるんだと思います。そういうところが小さいころから培われているわけです。あのメッシが見せた、ワールドカップの決勝や準決勝での頑張りはさすがでした。サッカー理解が高くて、小さい頃からボールを取りに行かなくちゃいけないところには行く、まだいいと思ったら行かないという判断をしていると思います。日本も、埼玉も、選手たちにそういう判断を放棄させないような指導が必要でしょう。

審判もサッカー理解を深めていかなくてはダメですね。審判オタクになっているようではいけないと思います(笑)。

審判活動そのものが「自分がどうありたいのか」を問われている

—— サッカー理解の土壌は、プレーヤーとしての経験が必要ではないでしょうか。

中村 あっ、以前は「サッカーをしていなかったからわからない」という話に同意していました。自分自身の競技経験が(審判をする上で)武器だと思っていました。でも、それがあるとき「武器じゃない」ということに気づけて、この気づけたことが審判として一皮むけた瞬間だったと思っていますよ。

—— それはということでしょうか？

中村 要は、僕たち審判はさっきお話しした通り、目で見ただけで判定をしなくちゃいけないというか、自分で得た情報だけで判断するというのが大原則だと思っています。ただ、そこに自分の競技経験からくる「これぐらいできるでしょう」とか、「このディフェンス、悪さしようと思ってやったわけじゃない」とかという、ファクトじゃない部分、自分の一方的な思い込みが、結果的に判定がぶれる原因になっていたのではないかなと考えているんです。

プロとして私が追及しているのは、「この後何が起きるか」、「事象が起きたときに正しい判定をするためには何の情報を探すべきか」



という事に基づいて、それならば「どこにポジションを取ればいいのか」ということを自分自身に常に問いかけることなんです。

そこで、荒川さんがおっしゃった「プレーヤーとしての経験が必要かどうか」という質問に繋げるとすれば、自分の競技経験がなくても「こういう状況だったら次、こういうふうになるのでは」という選択肢を、自分の中の「引き出し」として持つことができるのであれば、私は自分に競技経験がなくてもいいと思っています。

たくさんサッカーを見て、いろいろな選択肢を持っていいと思います。そういう意味では、今世界的に見てもやはり若くして審判をやらないと、世界と戦っていくにはちょっと難しいと思います。もちろん競技をしながら審判をやるのが理想なのかもしれませんが、一概に早いうちから審判の道に行くことは決してデメリットではないとか、それはいくらでも補えるのではないかなと私は感じています。

前之園 「次はこうなるだろうな」というのは必要です。ですから「(サッカーを)知っている」ことも大事です。例えば、競技レベルは高くなくてもいいと思うんですね。高校まででもいいと思います。ただ、学び続ける、吸収し続けるということが必要ですし、そういう姿勢を忘れないようにしないとダメですね。「みんなでサッカー(の試合)を作るんだ」という意識を持ってもらえるといいですね。

という話ができるようになったのも、ここ10年、20年の進化だと思います。

—— 難しい話でしたね。丁寧に答えていただき、ありがとうございます。

さて、私からの質問はこれを最後にしたいと思います。「これからの審判に求められるものは何か」です。いかがでしょうか。

中村 そうですね……選手に受け入れてもらう、信頼してもらうためには、そう、ピッチ上で信頼してもらうためには、まずは一人の人間として信頼してもらわなくちゃいけないと思っています。審判の前に、人として、です。

本来いなくちゃいけないポジションにつくための体力と同時に、ピッチ上での選手への声のかけ方とか、振る舞いとか、そういったことから始めて、ピッチ外でも、人として人間性をどれだけ高められるのかっていうのは、すごく重要になるかなと思います。

私自身、審判を通じて、人間的に成長させてもらったと思っています。例えば、社会に出たときに、自分のやりたくない仕事をしなければならなくなったとき、どうやって取り組むか。ふてくされてやるのか、誰かのためにやるのか……やはり、結果として大きな違いが出てくると思うのです。ですから、そういうことを常に考えていて、審判活動そのものが「自分がどうありたいのか」を問われているのではないかと考えているんです。

—— 深いですね。ありがとうございます。前之園さん、いかがでしょうか。

前之園 漠然とした言い方になってしまっていますが、みんな、サッカーが好きで関わっているのですから、お互いにリスペクトすることが必要だと思います。そして、この大好きなサッカーがよりよくなるためには、どう努力するのだろうか。また、まだサッカーが好きではない人たちに受け入れてもらうためには、どうすればいいかなどを考えることで、自ずと見えてくるのではないかなと思いますね。

—— ありがとうございます。自分自身に向き合うこと、とでもいえばいいのでしょうか。ただ、それは自分のことだけでなく、社会の中の一員としてということを考えているかどうか問われるということだと理解しました。

さて、ここで改めて酒井くんに登場していただきましょう。自己紹介からお願いできますか。

酒井 改めて、与野高校1年生の酒井星南(せな)です。よろしくお願いします。サッカーは小学1年生のときに始めて、中学、高校とサッカー部に所属しています。審判は、中学1年生の頃から目指そうと思っていました。

——中1で、ですか？

酒井 はい。小6のときに第4種リーグに出場したときの話です。その日の試合で、よく滑ってしまっていました。というのは、スパイクがダメというグラウンドだと聞いていたので、トレーニングシューズで試合に出たんです。その試合を担当していた2級審判員の方が「よく滑ってるね」と、明るい感じで声をかけてくれたんです。途中で「ナイスプレー」とかも言ってもらいましたし、試合が終わってベンチに戻るときも、自分にだけ声をかけてくださって。それがめちゃくちゃカッコいいなと思ったからですね。

前之園 そんな素敵な2級審判って、誰だろう？

酒井 顔を見ればわかるのですが、ある少年団のコーチの方だったと思います。

前之園 なんだ、僕にあこがれてくれたんじゃないかな……実は、酒井くんのお父さんは、高校の後輩なんですよ。でも、よく2級だったってわかりましたね。

酒井 父は4級審判なのですが、結構真面目に活動していたものですから、「(ワッペンが)シルバーだと2級なんだ」と教わっていました。——なるほど。いい話ですね。ところで今回、前之園さんからの推薦で酒井くんにお越しいただきました。ユース審判員として活動されているんですね。

前之園 彼だけではありませんが「2023 関東ユース審判員研修会」に参加してもらいました。3日間ですごく成長してくれました。残念ながら、鹿児島で開催された「JFA 全日本 U-12 サッカー選手権大会」の担当審判に、今年度は選ばれませんでした。将来を期待している一人です。

——前之園さん、ありがとうございます。かつ酒井くんは、中村さんを尊敬しているということでお越しいただいたわけですね。

酒井 自分としてはあこがれの存在です。

中村 すごく光栄です。若い、これからの人と繋がりを持てるというのは幸せなことです。ありがとうございます。

プロフェッショナルレフェリーを目指していたわけではなかった

——ということで、酒井くんの中村さんへの質問を用意してもらっています。よろしくお願いいたします。

酒井 まずは審判を目指すきっかけと、さらにその先、プロフェッショナルレフェリーになるきっかけを教えてくださいませんか。

中村 審判は教員になったときに、最初に赴任した学校が、今、酒井くんが通っている与野高校にいらっしゃる岡田先生(泉氏。SFA 副会長／前 SFA 審判委員長)がサッカー部の顧問をされていた川口青陵高校だったんです。そこで、岡田先生から「選手経験があるのだから、審判をやってみないか」と誘っていただいたのがきっかけでした。本当は、技術の方に行こうと思っていたんですけど(苦笑)、そこから始まりました。

——要は、岡田さんにつかまったんですね(笑)。さて、そこからプロフェッショナルレフェリーへの道が始まったわけですね。

中村 その中で、教員をしながら審判をやり続けることを目標にするようになりました。ただ、正直なところ国際審判員になりたいと思って突っ走っていた時代もありましたが、タイミングを含めて、ある時期に国際審判員になることが難しいこ

とになってしまったんです。そのときに、最初の目標通り、教員を続けながら審判をやっていこうと決心したんです。

そんな中で、前之園先生が教員の審判活動の環境改善と理解促進を図るべく、県庁に出向することになったとお聞きしました。県庁職員をしながら、審判活動を継続されたのです。実際問題として、教員をしながら審判活動を続けることが難しい環境になっていたのも、私も後輩を取り巻く環境が少しでも改善されればという思いがあり、管理職試験を受験して県庁に出向させていただくことになりました。

県庁での仕事は、それまで教員として積み重ねてきたものが全く通じない世界でした。しかし、その経験のお陰で物事に対する見方が変わり、人間的にも大きく成長するきっかけとなりました。その影響で審判として選手に対する接し方や決断力が向上し、様々な方に良い評価をしていただいた結果、「プロフェッショナルレフェリー」という道が開けたのです。一度は自分の中で閉じていた夢でしたが、私の可能性を信じてくれた方々がいらっしやるというのは本当にありがたいことで、お受けしたんですね。だから、初めからプロフェッショナルレフェリーを目指していたわけではなかったんですよ。

実際にプロフェッショナルレフェリーとして声をかけてもらう年齢としては、かなり遅かったんです。契約した当時は14人中上から5番目で、今は上から3番目の年齢ですから(笑)。

酒井 いくつでプロフェッショナルレフェリーになられたんですか。

中村 42歳です。

——前之園さん、中村さんからプロフェッショナルレフェリーの話があると聞きになって、どういうアドバイスをされましたか。

前之園 プロフェッショナルレフェリーにも、国際審判員を目指す若い人と、国内のJリーグを安定させなければならない人が必要なんです。というのは、現在は国際試合が多く、国際審判員になると海外に派遣されることが多いんですね。それでもJリーグを安定して開催しなければなりませんから、評価されるレフェリーに頼らなければいけません。

聞いたときは正直、うらやましかったですよ。それとうれしかったです。でも「俺もやりたかったな」と(苦笑)。もちろん、「やれよ」と言いました。

——そうですね。ありがとうございます。酒井くん、次の質問、よろしいですか？

酒井 他にやりたい仕事はありましたか。

中村 警察官と消防士と教員と三つありました。身体を動かすのが好きで、どちらかというと、人の役に立ちたいなと思っていました。結局、すべて受けて合格した時点で、サッカーに直接関われるのは教員になって部活の顧問をすることだと思い、教員になりました。でも、今でも警察官と消防士にはあこがれがありますね。やってみたいですね。



酒井星南さん



酒井 ありがとうございます。

前之園 スペインだと兼業することは当たり前で、それも審判を兼業することに関しては尊敬されるんですけどね。

——世の中的に、サッカーに限らずスポーツの審判活動している人に対して、もっとリスペクトしてくれるようになったら、いろいろ変わると思いますね。

中村 仕事をしながら審判活動をするのであれば、職場の皆さんから応援されるようにならないといけないと思います。そのためには日ごろからの仕事の取り組み方が大事ですね。職場の皆さんが快く送り出してくださることに感謝していました。

酒井 もう一ついいですか？ 自分が国際審判員、プロフェッショナルレフェリーになるために、今やったほうがいいことがありますか。

中村 繰り返しになりますが、自分が審判をやる上で意識しているのは、本当に見たもの、自分がつかんだ情報をもとにしか判定しないということです。もちろん、自分で見たもの以外にも副審からの情報などもあります。多分何かだろうとか、雰囲気だろうというジャッジだけはしないように心がけています。

そのためには、やはり何らかの情報を得なきゃいけないんですね。多くの引き出しを持つために、外から練習見ているときでも「何が起きそうかな」と常に考えながらサッカーを見る目を育てていってほしいと思います。

あと、英語を勉強したらいいと思います。学校の授業でいいです。英会話とか、じゃなくていいから、英語の授業をちゃんと受けるだけでも、ある程度コミュニケーションを取れるものです。

そうそう、探究学習をやっていると思います。ぜひ、いろいろなことに対して積極的に興味を持って、「なぜ」「どうして」という気持ちを忘れないでほしいのと、人に対してオープンマインドで接することが必要だと思います。

酒井 ありがとうございます！

審判というのは、誰かに必要とされる、誰かの役に立てる仕事

——いい話じゃないですか。酒井くん、ありがとうございました。我々だけでは、こういう話には広がっていきませんからね。助かりました。

さて、これで最後にさせてください。県内で活動されている審判の皆さん、また、これから審判をやってみたいと思っている皆さんに何かメッセージをいただけますか。

中村 審判は、サッカーの試合においては陰で支える存在だと思うんですね。選手やサポーターが心からサッカーの試合を楽しんでいる瞬間に、少なからず何か支えているのが審判の役割だと思っています。

ピッチ上で、サッカーの試合そのものが誰かに感動を与えたり、元気を与えたりするときに、一緒にその瞬間に立ち会えるっていうのも唯一、審判ができることです。選手以外でサッカーに関わっていくことを考えたときに、選択肢として審判というものがあるっていう存在をまず認識してもらえればいいと思います。もし、少しでも興味があるのであれば、ぜひうまくできるかなとかそんな関係ありませんので、飛び込んで欲しいですね。

審判ファミリーってすごく温かいんですよ。必ず周りの人が助けてくれますし、実際埼玉県であれば、先輩が後輩の面倒を見てくれます。それが、埼玉県のすごく良い伝統だと思っていますし、私も本当に面倒を見てもらいました。そういう意味では私も恩返ししたいな、酒井くんみたいな若い子たちに何ができるかなと思っています。何かあれば力になりたいと思います。

あと、がむしゃらに3級から2級を目指してとかね、2級から1級を目指すっていう若い人たちには、先程もお話した通り「審判が上手だから、その人間が優れている」というわけではなく、「担当しているレベルが高いから、その人の価値が高い」というわけでもない私は思っています。ぜひ担当した試合は、自分を成長させられ

る一つの間だと思って、取り組んでくれればいいと思います。サッカーを公平に実施するためには審判っていうのは絶対必要不可欠なのですから。

そういう意味では、審判というのは、誰かに必要とされる、誰かの役に立てる、そういう仕事だと私は信じています。そういうことを忘れずに、一緒に日々、取り組んでいきましょう。

——ありがとうございます。先輩、感謝されていましたね。最後に一言、お願いします。

前之園 埼玉は面倒見がいいとか、フレンドリーだという伝統は続いてほしいものです。

私たちは、たまたま1級審判となり、なおかつトップレフェリーになりましたが、運がよかったりいろいろな条件が良かったりした部分もあるんです。誰でもそういうチャンスはあると思いますし、そういう能力を持っていると思います。ぜひ頑張ってほしいと願っています。

私としては、審判委員会の副委員長として、大好きなサッカーをやる審判が当たり前のようにいる社会を、是非埼玉の中で育てていきたいと思っています。

最後になりますが、弱さって自分を優先することだと思うし、強さって他人を優先することだと思うんですね。そういう精神を忘れないでもらいたいなと思っています。今日はありがとうございました。

藤田 私からも一つお聞きしてほしいですか？

中村さん、試合が始まる前に、選手を先導して最初にピッチに入るじゃないですか。その気分というのはいかがなものですか。

中村 気分ですか……最初にピッチに入るのは気持ちいいんですけど、大体テレビなどの映像では、私たち審判がいなくなってから映し出されるじゃないですか。自分が(カメラで)抜かれているという感覚はないですね。それよりも「どうやってゲーム入ろうかな」とか、そういうことしか考えてないですね。

藤田 私は撮影スタッフに、審判が入場する瞬間を必ず撮影するようにお願いしています。というのは、もちろん試合は選手が主役なんですけど、やはりいろんな画像の中に審判の方が写り込んでいて、選手と一緒に試合をつくっている空気感が個人的に好きなんですよ。

中村 ありがたいです。そうですね、ピッチからスタンドを見上げて、今日はこんなお客さんが入っているんだ、みんなが楽しんで帰ってほしいなと思っています。そして、また来てほしいなと。

——長い時間、ありがとうございました。中村さんと前之園さんのお話を通じて、少しでも「審判」を理解いただけるといいですね。中村さんの今後のご活躍を期待しています。酒井くんもありがとうございました。

中村 太……1978年生まれ。さいたま市出身。

開智高校から順天堂大学に進学し、県立高校教諭となる。2009年に1級審判員となり、2010年にJ2で主審デビュー。2022年、JFAとプロフェッショナルレフェリーとして契約。通算J1 150試合、J2 95試合など。直近では、2023 JリーグYBCルヴァンカップ決勝戦も担当した。



～木村滋・県審判委員長に聞く～

「審判委員会の今とこれから」

県内では4種を中心に、フェアプレー・規律委員会案件が増え、昨年はSFA NEWSでも「リスペクト」連載を行ったほどでした。様々な角度から意見交換を行う中、指導者の問題がクローズアップされた一年だったのではないのでしょうか。今回は敢えて、審判にスポットを当ててみました。県内における審判活動の状況を中心に、育成・強化も含めて、「今とこれから」を木村委員長にお聞きしました。（聞き手／荒川裕治（広報委員））

——改めて、中村 太さんのJリーグ最優秀主審賞受賞を称えたいと思います。ご本人の努力の結果ではありますが、県審判委員会としてのサポートがあつてのことだったと思います。おめでとうございます。

木村 ありがとうございます。これは県全体の誇りだと思います。また、県内で審判活動をされている皆さんにとっては、励みとなり、改めて目標になったのではないのでしょうか。大変うれしく思っています。——そういう盛り上がりの中で、審判委員会の現時点をお聞かせいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

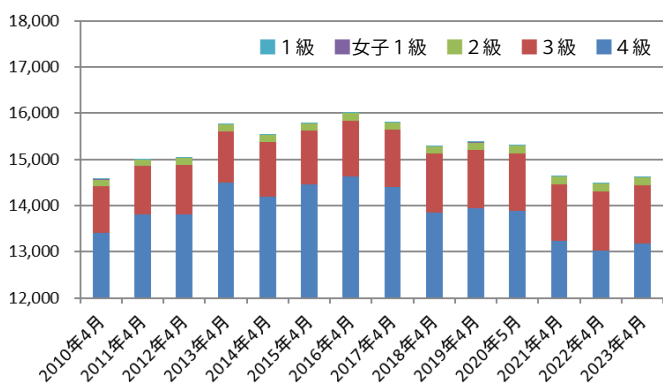
まずは、審判数は依然、国内トップクラスだと思います。

木村 そうですね。人口の関係もありますが、東京都、神奈川県に次いで3位となっています。4級に関しては、これまで市町協会主催で審判講習会を開催していましたが、平行してYou TubeとZoom、Google フォームを活用した講習会も始めています。

級	1級	2級	3級	4級	計
人数	9	172	1,267	13,168	14,616
割合	0.06%	1.18%	8.67%	90.09%	

（県内審判員登録数 2023年4月1日現在）

増減に関しては、新型コロナウイルス感染もありましたが、ここ数年はこのように推移しています。



また「質」という面では、JリーグやJFLを担当している1級審判員を9名輩出しています。この数字も多いのですが、同様に自慢したいのは関東リーグ、関東大学リーグ1部を担当するレフェリー数です。トータルで24人と決まっていますが、うち7名が埼玉県所属です。関東の中でも、埼玉県の審判員への評価は高いと思います。

ただ、次を担う世代に関しては、物足りないというのが現状です。このクラスと次のクラスとの力量の差があるということです。以前でしたら高校の先生たちが熱心に取り組んでくれたのですが、勤務上、審判との兼務ができなくなってしまったという理由があります。社会人の皆さんにがんばっていただいているのが現状です。

そんな中で、この1月に眞尾 龍さんが1級審判員に認定されました。ここからさらにがんばっていただきたいと思います。

——さて、県内では1年間でどのくらい公式戦があるのでしょうか？

木村 こういう数字があります。昨年度調査した試合数ですが、県全体で9830試合。内訳は1種1465、2種2207、3種1379、4種3658、女子489、シニア632となっています。

——1万試合ですか。これにフェスティバルなどを入れたら、想像で

きない試合数が県内で開催されているということですね。そのうち、県審判委員会から派遣される試合数はどのくらいになるのでしょうか。

木村 基本的にその連盟内で賄っていただきたいとお願いしていますが、だいたい年間800試合程度でしょうか。県大会の準決勝、決勝を中心に各リーグ戦が対象です。それを100名程度の審判の皆さんに担当していただいています。

先程の数字を見れば、審判数は多いのですが、実際に担当していただける審判の皆さん、私たちはアクティブレフェリーと呼んでいますが、積極的に活動されている方はそう多くないのです。

——実際問題として、足りているのでしょうか？

木村 審判割り当て担当の北澤愛一郎競技部長からは「足りていない」ということです。この100名の皆さんが熱心にご活躍いただいているから、なんとかなっている状況です。各カテゴリーでリーグ戦が多くなっている中で、積極的に関わっていただける方を求めています。

——自チームの帯同審判をするために取得された方々が向上心を持って、他の試合を担当してみたいと思える環境整備が必要だということでしょうか。

木村 ただ、4種の帯同審判をしていた人がいきなり、社会人リーグの審判を担当するのは難しいことです。スピード感や選手心理の理解——子どもと大人では違います。イメージしているのは、社会人チームの方でプレーヤーとして引退した後、審判になってもらうというのがいいですね。状況などを理解して担当していただくと、スムーズだと思うのです。そういう「働きかけ」が必要だと考えています。——「働きかけ」の中で、県内のサッカー環境をイメージしてもらえるといいですね。将来どうなるのかというところまで踏み込んで考えていただけるとありがたいですね。

では、審判委員会における具体的な施策についてお聞かせください。

木村 強化としては、これまで「レフェリートレセン」と言っていましたが、2024年度からは「トップレフェリー養成講習」として新たにスタートします（2/25に申し込み締め切り）。月に1度、SFAフットボールセンターに集まいただき、3級審判員を中心に2級審判員と交流しながら、埼玉からトップレフェリーを輩出していきたいと考えています。

2級としてトップレフェリーに必要な技能・競技規則の理解・体づくり、そして実践形式の実技を強化部部会メンバーや指導者部会インストラクターによって指導しています。また、県内出身の1級審判員や一般企業の方に講習を行なっていただき、知識だけでなく多くの社会情勢・常識を身に付けるよう指導も行なっています。やはり人間性も求められる立場でもあります。早い時期から高い意識を持ってもらうことは必要だと感じています。

取り組む意識の高い方には、埼玉県高校選手権の割当て、関東カテゴリーへの推薦、各大会への派遣などを行なっています。高校選手権を利用して宿泊研修、決勝戦を見学研修しています。2022～2023年では21名が受講し、6名が2級に昇級しました。



木村 滋 県審判委員長

2級昇格を目指す皆さんを対象に、2級昇格審査は年2回実施しています。各種部・4地域審判委員長からの推薦があった3級審判員の県内選考を行い、関東協会で行われる2級審査にチャレンジしてもらっています。審査は試合での実践審査・競技規則テスト・体力テストを行い、基準を満たせば、関東への試合に挑んでいけることになります。

また年に1回ですが、2級審判員の体力テストと今年度より競技規則テストも実施し、常に審判員としての体力と知識の確認することを行なっています。個々がアップデートすることで、よりレベルの高い試合に対応できるようにしています。

——周囲からのしっかりとしたサポートがあつての昇級なんですね。また、個々で自分自身を向上させるなど、上を目指す皆さんは自己研鑽が必要なのですね。

高校生、ユース年代への指導も進んでいるとお聞きしています。

木村 木村康弘育成部会長を中心に「レフェリアカデミー」を開催しています。その前に、高校生年代の4級審判講習会ですが、新型コロナウイルス感染以前の2019年度は「講義型」で行っていました。合格者は1460名。それが翌年度からは「サテライト方式」を導入し、講義をZoomで、テストをGoogleフォームで行うことで受講者が拡大し、2588名が合格。以来、多くの高校生に所得してもらっています。中にはU16リーグの担当をする選手も出てきていますが、継続性が課題となっています。

そこで2019年から大学生を含めた向上心の高い若手審判員を育成すべく「レフェリアカデミー」を始めました。毎年参加してくれた審判員はほぼ3級を取得し、すでに2級を取得した方もいて、成果は出てきているところ です。

——内容的にはどのような取り組みでしょうか。

木村 「トップレフェリー養成講習」と日程を合わせて開催しており、こちらも月に1度の活動です。毎月テーマを設定して行っていますが、現在目指しているのは、12月に開催される「JFA全日本U-12サッカー選手権大会」への派遣審判員の輩出です。その前段階として茨城県内でのカップ戦が「関東ユース審判研修会」として開催されますので、直接的にはその研修会への推薦です。

ただ、これに選ばれることが目標ではなく、審判活動を継続しながら、さらに上級を目指してほしいと思っていますし、上級でも適用する技術と信頼される人間性の育成が大事だと思っています。

この「人間性の育成」という面では、県障がい者サッカー協会と協力して、各大会への審判派遣を行っています。参加者にとっては、多くの「審判」体験が大きな力となります。様々な研修を経て、将来的には1級審判員として活躍してくれる人材を送り出したいと考えています。

——どのような課題があるでしょうか。

木村 「トップレフェリー養成講習」も「レフェリアカデミー」も、参加者を増やすことでしょうか。どちらも年々少なくなってきました。もっと審判に興味・関心を持ってもらえるようにしなくてはならないと考えています。

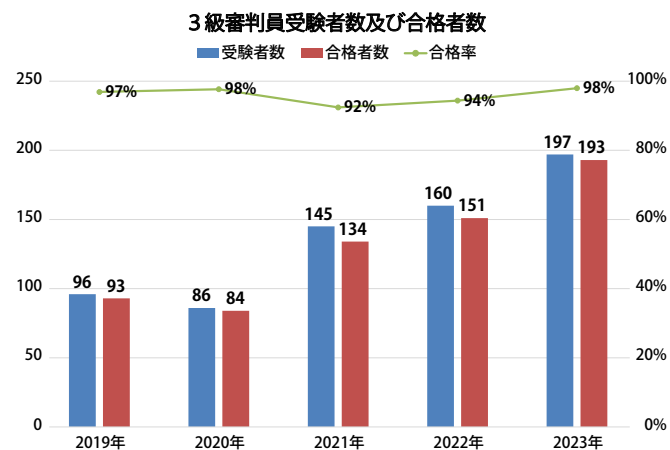
また、内容を充実させることは当然として、フォローが大事だと思

います。審判活動ができる場の確保もそうですし、インストラクターが関わり続けることで継続してくれると考えています。大切な人材ですから、ここをスタート地点としてさらに目標に向かって進んでほしいと願っています。

——やはり、「審判」そのものへの理解を深めていただく必要性があると思います。そのためには、全体数をもっと伸ばすことが懸案かと思っています。例えば、4級審判の失効をどう食い止めるか、一度取得していただいた方が継続していただくような施策があるといいのですが。

木村 登録普及部会の小松一茂部会長からの話ですが、確かにそこは大きな課題ととらえています。ただ、4級審判員になった方々の多くは、チーム事情によって取得された方だと思っています。必要があるかどうかで継続されるかどうかが変わってしまうのが現状です。

そこで、小松さんに率先して取り組んでいただいているのが、4級から3級へ昇級するための講習会です（正式名は「サッカー競技規則勉強会」）。4級を取得されている方の中で、審判活動に興味を持った方を対象に3級昇格へのサポートをオンラインで行っています。内容としては、90分の講義を2回受講していただくことになっています。受講料は無料。明らかに成果が出ています。



4級の拡大も目指していますが、3級の拡大も急務でした。やはり経験や実績が問われるものですから、3級昇格はハードルが高かったようです。しかし、登録普及部の活動により、着実に3級審判員資格認定講習会への受講者が増加し、合格者も増えています。ここで審判の楽しさを感じた方々がさらに2級を目指すべく、県内各地で担当していただけるようになると、前述の「アクティブレフェリー」が増加し、かつ質も高まると考えています。

——現場を担当していただける審判が増えることで、全体的なレベルアップにもつながりますね。もっと3級を身近に感じてもらえるこの施策は素晴らしいと思います。

木村 一つひとつの取り組みとしては、徐々にですが成果は出てきていると思いますが、これを継続させることが大事ですし、我々が行っている事業を多くの方に理解してもらうことが大切だと考えています。

現在、総務部では中断していた「アフター10」事業を次年度から再開しようと準備しています。4種選手権大会などで、試合後に両チームの監督さん、担当審判、そして審判委員会からスタッフを派遣して、試合の感想やジャッジに関する質疑応答をしていただくものです。特に「あのプレーはどうだったのか」と指導者と審判が意見を出し合うことで、相互の信頼関係を作ってもらえる場になっています。

また、ここ数年直接対面方式では開催できなかった市町FA審判委員長会議も復活させ、意見交換ができる体制づくりを再構築していきたいと考えています。審判仲間の皆さんに理解してもらうことで、活動がよりよいものになると思っています。

——意外と足元が見えなかったりもします。足元を固めることは大事ですね。



最後になりますが、ここまで審判委員会の活動について掘り下げたことは初めてでした。まだ足りないかもしれませんが、最後に木村さん自身が考える「審判の面白さ」をお聞かせいただけますか。

木村 日本クラブユース大会（U-15）の審判で、準決勝でジェフ市原（当時）の試合を担当しました。あのときに阿部勇樹さん（浦和レッズユースコーチ）を見たんですよ。とにかく、一人だけボールの球筋が違う。変な回転がかからず、まっすぐに長いボールを蹴っていましたね。中学生だとまだパワーがないから、狙ったところに届かなかったりしますが、彼のボールは違いました。飛び抜けていました。そうしたら、翌年は高校1年生で千葉県の日体選手。かつレギュラーで出ているじゃないですか。当時の国体だと3年生が主体です。その中に2年生で入っているだけですごいと思っているのに、1年生ですよ。驚きました。そこから最年少Jリーガーになったんですよ。

審判をしているとそういう選手を、それもプロとして活躍する前に見ることができたりするのです。目の前ですごいプレーを見ることができるのです。そういう発見ができる機会を持てるのです。サプライズを体験できるというのが楽しみだと思っています。

——埼玉のサッカーも、日本のサッカーも進化しています。そういう場面はこれから県内各地で見ることができるようになるかもしれません。ただ、そういうプレーは試合があつてのこと。その試合には必ず審判がいて、成り立つわけですね。もっと審判そのものに興味を持ってもらえるようサポートさせていただきます。ありがとうございました。



～戸田市サッカー協会の試み、南部審判委員会の取り組み～ どう育てていくのか？

戸田市サッカー協会 審判部長 服部 旭（2級）

「笛を吹く勇気」

以前、「SFA NEWS」でもご紹介いただいた戸田市FA女子審判部は、2021年に立ち上げて活動を行っています。この一年を振り返りますと、2023年4月から月2回ほど、平日の夜に南稜高校をお借りしてトレーニングをしています。基本的には4級の女性の皆さんで、家庭を持つお母さんたちです。御家族の都合で欠席もありますし、遅刻もあります。正直、コンスタントに出席していただけるわけではありませんが、初心者こそ、一緒にトレーニングする場、仲間が集まる場を用意することが大事だと思っています。



服部 旭氏

指導担当のインストラクターとしては、佐藤秀宣さん（2級。県社会人連盟審判部長）、佐藤ゆみさん（2級。県審判委員会指導部）と私です。さらに時間があると濱名さん（哲也氏。元国際副審/JFA 1級審判インストラクター）が、私たちの指導に来ていただきます（苦笑）。

毎回、フィットネストレーニングとテーマは一つだけに絞って、90分を目安に開催しています。テーマは例えば、ゴールキックに対しての（主審、副審それぞれの）スタートの位置などです。

当初、「こういう課題があるのか」と思ったのはスローインでした。スローインをする場所が違う場合、ファールスローの場合……修正できないというか、笛を吹くことができない。その勇気がないのです。皆さんを見て、改めて「笛を吹く」ということは勇気が必要なことなのだと痛感しました。

どう実践で吹いていただけるか。担当していただけるか。サイクルのイメージとしては、ここでの研修を経て大会に参加していただき、また研修をと考え、進めています。ただ、今夏はフルピッチのゲームに研修として参加と、猛暑もあり、受講者のお一人が熱中症となり、ご本人とご家族、関係者の皆様にご迷惑をおかけいたしました。こちらの配慮不足で申し訳なかったのですが、現在も続けていただいていることに感謝しています。

4級審判がトライできる環境をどう整えるか

成果を感じられたのは1月でした。地元・戸田にて開催された「UGAJIN カップ」（浦和レッズの宇賀神友弥選手主催。U-12対象）

に参加させていただいたところ、4月に笛を吹けなかった方々がファールをしっかりと取り、FKのマネジメントができるまでになってくれました。初年度は6人程度の参加ではありましたが、一人の脱落者もなく終了したことは、大きな喜びです。

皆さんとの交流の中で、「子どもがサッカーをしていた」「少年団のお手伝いで4級審判を取得した」など、相当数の方と出会うことができました。問題はやはり、審判そのものを体験する場、実際に担当する場がないということです。

そもそも、女子審判部を立ち上げる際に、市の少年団の団長会議において「チームに所属している女性レフェリーに審判を担当できる環境づくり」をお願いしてあります。せっかく取得した審判資格です。お子さんが卒団した後、地域の一人としてサッカーに関わっていただきたいですし、審判を続けてほしいのです。

「南部地区レフェリーアカデミー」開催中

任意組織ですが、県南部（桶川、上尾、さいたま、川口、戸田、蕨）で活動している審判の皆さんで「南部審判委員会」（会長・今野正明）を運営しています。その中には「育成部」があり、ここで「人材育成」のために2023年度より「南部地区レフェリーアカデミー」を始めました。

このような取り組みを始めたのは、県社会人リーグ参加チームから審判に対して意見書をいただくことが多かったことから、我々、審判員の中で改善していきたいと思います。その意見書を拝見しますと、その多くは判定基準のバラつきや判断の妥当性を問うも



のです。そのため、ここでの「育成」として、今、組織の中で共有していることは、「育成とは、3 級が 2 級になることではなく、3 級も 2 級も関係なく、競技規則に沿って試合を円滑に進められる審判員を育成すること」と考えているところです。

各回定員は 30 名程度。4 級、3 級、さらには 2 級審判の方々の参加もありました。初回は 5 月 13 日でした。座学で一つの事象について討議しました。以来、二か月に一度程度ですが、グラウンドレベルでのフィジカルトレーニング、大会の見学研修などを重ね、県内・関東で開催されるフェスティバルに参加する「実技研修」も行っています。

まだ年度が終了していませんが、予想以上に多くの方に参加していただいたことに感謝申し上げます。今回開催したことで、逆に指導する側のスキルアップが問われるなど課題が見えてきたことは有意義だったと考えています。また「南部地区」として一体感を感じられたことは収穫だったと思います。

来年度もすでに計画しており、別途告知などしていく予定です。ぜひ、南部地区で審判資格をお持ちの皆さん、参加してみたいかがでしょうか。お待ちしております。



～お疲れさまでした～

もっと審判の「体験」の場を

伊藤実奈子さん（女子 1 級）

今年度を持って、長く埼玉の女子審判をけん引してきた伊藤実奈子さんが「女子 1 級」を勇退されました。振り返ると、20 年前の「SFA NEWS」(27 号)に伊藤さんの 1 級合格記事を掲載しています。2001 年に続いて、2003 年に再チャレンジされての昇格でした。あれから 20 年。本当にお疲れさまでした。（聞き手／荒川裕治（広報委員））

——改めて、お疲れさまでした。とはいえ、まだ続けられたのではないのでしょうか。

伊藤 いえいえ、会社での立場もあり、仕事の両立が難しくなっていました。近年は「この試合が最後かも」と思いながら、担当してきました。最後の担当試合は 2023 年 1 月の「全日本 U-18 女子サッカー選手権大会」でした。

結果的に全国大会を除く、なでしこリーグ、WE リーグを合計すると 233 試合担当していました。主審、副審、第 4 の審判も含めてです。

——いえいえ、年間 20 試合はコンスタントに担当されてこれたのですから、十分な試合数だと思います。

そもそも、サッカーとの出会い、審判を始めるきっかけは何だったのでしょうか。

伊藤 まず、サッカーはしていなかったんですね。ただ、中学時代にサッカーが好きな友人がいて、その友人は「中学校にサッカー部が無いから」と同好会を作りたいと陳情するような人でした。高校を卒業して、その友人から JSL（日本サッカーリーグ）の試合に連れていってもらい、サッカーが面白くなり、そのうちに自分でも蹴りたくなったんですね。ただ、もう当時の自分の年齢でサッカーを始めるとトップにはなれないとわかり、ならばと経験がなくてもサッカーに関われるということで審判に興味を持ったんですね。もっとサッカーを知りたいと思い、ルールも勉強するようになったということもありました。

——そうなんですか。要はいきなり審判から、なんですね。

伊藤 それも、審判になるにはどうすればいいのかと考えて、高田静夫さん（元国際審判員、元 JFA 審判委員長）に会いに行ったのが最初です。

——あの高田さんですか？ 大泉学園に行ったんですね。

伊藤 そうです。お電話をして会っていただけたということで、「高田スポーツ」へ伺いました。父親に審判になりたいと話をしたところ、「その道のトップの人に話を聞くのが一番いい」と言われ、背中を押されました。J リーグが開幕して間もない、95 年でした。

——高田さんが審判を引退された年ですね。どういう話をされたのでしょうか。

伊藤 審判に興味があるという話をしたところ「職場が東京ならば」と、埼玉県協会ではなく、東京都協会を紹介していただきました。もともと東京には女子チームが多く、女性審判の方もいらっしゃいました。高田さんに道筋をつけていただいたことで、俄然やる気になってしまいましたね（笑）。覚えているのは、見ず知らずの私の話を聞いてくださる中、とても丁寧な話し方で答えてくださったので、一流の人こそ、謙虚なものなんだな、という印象を受けました。後

に、私が女子 1 級として登録した年は高田さんが審判委員長でしたので、挨拶したときに「夢、実現ですね」と言っていただいたのは、とても嬉しかったです。

——「審判をしたい」と直に会いに来てくれた伊藤さんが「1 級」となって再会するのですね。高田さんも喜ばれたことでしょうか。しかし、最初は東京都での活動でしたか。20 年前の時点では埼玉で、それも戸田市協会の審判部の所属でしたよね。

伊藤 96 年の 1 月に 4 級となり、女子の都リーグを中心に活動を始めました。その年の 11 月には 3 級を取得して、その後に埼玉へ移籍しました。最初は川口の少年団の帯同審判やクラブユースでも担当しました。それから 2 級になって、活動を広げたいと思ったと



伊藤実奈子さん

きに戸田の伊藤章さん（元戸田市協会審判委員長。現、戸田市協会理事長）から声をかけていただいて、戸田で学ばせてもらいました。
——戸田市は高橋明さん（故人。元 SFA 副会長）が 2 級審判として JSL などを担当されていたことで、審判活動が熱心でした。

伊藤 2 級までは順調でしたが、女子 1 級への競争は熾烈でした。二度目のチャレンジで 1 級に昇格できたことは、戸田市協会の皆さんはじめ、埼玉県内の方々の多くの支えがあつてのことです。ちょうど、2004 年の埼玉国体のときに女子 1 級として全国の審判員をお迎えすることができたのは良かったと思っています。

女子サッカーの歴史としては、日本女子サッカーリーグが 94 年に L リーグと名称を変更し、2004 年に日本女子代表が「なでしこジャパン」、リーグが「なでしこリーグ」となり、2011 年にワールドカップに優勝。しかし、2016 年にリオオリンピックへ出場できなかったことで厳しい時代に入りました。でも、またここで WE リーグ発足と大きな流れを見てきました。いろいろありましたが、この時代に活動することができたことは幸せだったと思います。

——今、山下良美さんが女性のトップレフェリーとして、世界で、それも男子の試合で担当されています。大きな時代の変化の中で、伊藤さんも「もしかしら……」という思いはあったのではないのでしょうか。

伊藤 フィットネステストに自信はありましたが、女子が男子の試合を担当することにはまだまだハードルが高く、女子 1 級から、1 級になりたいと思ってもパフォーマンスが伴わなければ、そこは厳しいものだとわかっていました。ただ、1 級も国際審判も自分で「なりたい」と思ってもできるものではありません。指導して下さる皆さんの「目」があつて、チャレンジできることであり、チャレンジできても叶えられるかどうかは個人の努力次第です。

これからの自分の活動としては、審判インストラクターとして自分の経験を伝えて若い人のサポートができればと考えています。

——女子サッカーそのものの発展には、女子審判のレベルアップ、さらには数もまた欠かせません。埼玉でも、まだまだだと聞いています。

伊藤 埼玉には WE クラブが 3 つもあるという強みがあります。そこを目指す子どもたちも増えていくと思いますし、もっと女子サッカーに関わる人が増えるはずですね。もっと「埼玉」を盛り上げて、できることはたくさんあると思っています。

県内において、審判に興味・関心を持っていただく活動はまだまだ少ない状況です。試合前のサッカー教室や試合の無い日の WE クラブの活動などで、子どもたちや、クラブや高校生などユース年代の人たちに審判を体験してもらうことはどうでしょうか。子どもたちも主審として笛を吹いてみたり、副審として旗を振ってみてもらうことも提案したいですね。そんな「体験」の場がもっとあるといいと思っています。みんなが体験することで、審判に興味をもってくれたり、それこそ「やってみたい」と思う人も出て来ると思います。そういうお手伝いをしていきたいですね。もちろん、その先に「育成」も強化していくことができれば、なお良いです。

——まずは「体験」ですか。いきなり高田さんに会いに行つた伊藤さんとしては、まずは「やってみよう」なんですね。日常の仕事もあるでしょうが、ぜひ、埼玉の女子サッカーをけん引してってください。今後のご活躍を期待しております。ありがとうございました。



目指せ、1 級 ～

原田 一輝さん

1992 年、さいたま市（旧浦和市）生まれ。

日本工業大学時代、学連副委員長として活躍。2015 年、2 級審判員に昇格。全国高等学校選手権大会（17、18、20、22 年）担当、すでに J3 も経験している。



原田一輝さん

振り返ると、人生最初の 90 分ゲームの主審は、大学 3 年のときに担当した I リーグ（インディペンデント・リーグ）の試合でした。まだ、県審判委員会の割り当てもいただけていない時期でしたが、関東大学連盟の審判エリートコースのメンバーに志願して活動していました。ちょうど、3 級審判を取ったばかりでした。

試合は日本大学と中央大学。I リーグとはいえ、トップチームは関東大学リーグでもトップレベル同士の対決です。当時の私から見ると、年齢的には変わらない選手たちがそれぞれ個々でトップチーム

昇格を目指していました。

その試合を振り返りますと、一言で言えば「ぐちゃぐちゃ」。前半の前半で崩れてしまいました。アフターがありながらもカードを出せず、とにかく必死になって目の前のファールを追いかけるだけでした。さらに雰囲気でもカードを出したりしましたが、ゲームコントロールはできないままでした。あとでビデオを見ましたが、自分事ながら「こりゃ、ひどいな」と思ったくらいでした。実際、両方のベンチのスタッフの皆さんは怒っていましたね……。

しかしながら試合が終わった瞬間は、清々しいというか達成感がありました。とにかく 1 試合、やり切ったという思いが強かったんですね。ダメダメな試合ではありましたが、あの達成感があつて、今があると思っています。

審判も「サッカー仲間」

実際、年に 1、2 試合ではありますが、ファールの取り逃しもなく、基準もしっかりして、勝ち負けのある中で両チームから感謝の言葉をいただくゲームがあります。そういう達成感が、審判を続けているやりがいになっていると思います。

やりがいとしては、もう一つ。選手の自分としては立てなかったピ

ツチに立ち、試合を担当するというのはうれしいことです。関東大学リーグでは、三笥選手（当時筑波大）、旗手選手（当時順天堂大）、上田選手（当時法政大）などという今では日本代表として活躍している選手たちと同じピッチに立ちました。大学の頃から、彼らのプレーは頭一つ、いや二つ抜けていました。社会人の関東リーグでは、憧れていた元日本代表の選手たちと同じピッチに立っています。

目標としては、1級昇格です。ぜひ天皇杯決勝を担当したいと思っています。もちろん、競争は激しいですし、特に関東は上を目指す審判の仲間たちが多くいるのが実情です。その中で土日の試合を担当するために、平日どこまでトレーニングするかは難しいものがあります。選手としてチームに入っていれば、チームで練習するでしょう。しかし、審判は一人ひとりであり、チームではありません。孤独な中でモチベーションの維持も難しいのですが、仲間たちと合同トレーニングを行うなど工夫しています。

審判員は、敵ではないんですよね。試合をよりよくしたい立場であり、どちらかに不利な判定をしているのではありません。ケガ無く終わってほしいと願っていますし、カードは出たくないのです。しかし時として、審判でがんばろうと思っている仲間が、選手や指導者、

さらにはお客さんという「サッカー仲間」から、心無い言葉を受けて辞めてしまうということもあります。これは寂しいことです。ぜひ、「サッカー仲間」だということを忘れないでください。

審判も、サッカーが好きなんです。



審判にあこがれてもらうには

SFA 副会長 岡田 泉

近年、JFA へは暴力・暴言に関する相談が多くなっています。2023 年度、埼玉県内でも今までにない案件が多く寄せられました。その多くが指導者による、選手たち、子どもたちへの暴言によるものでした。

世の中が変わってきています。差別や偏見のない世界に向かっていきます。サッカーの世界でもそうです。ワールドカップを見ても、意識を高く持って差別や偏見をなくそうと働きかけています。

しかし、実際のところはどうか。

チームには監督がいて、コーチがいて、選手たちがいます。その周りには保護者の皆さんを含めた、応援してくださる方々がいます。そういうチーム同士が「試合」を行う際、審判がいます。試合そのものを運営してくださる役員の方々もいます。さらに、その試合、大会を主催している組織や賛助してくださる企業もあるでしょう。広げていけば、グラウンドを提供して下さっている行政も同じです。多くの方々がいる、チーム同士が試合を楽しむことができるのです。皆さんが「仲間」のはずなのです。「敵」はいないはずなのです。

改めて、問います。この中に「差別」はありませんか？「偏見」はありませんか？

試合をすれば結果が出ます。勝ち、負け、引き分け。この三つのうちのどれかです。ただ、試合の中ではいろいろなことが起こります。一番は、試合だけでなく、練習でも出ます。何かわかりますか？

選手のミスです。サッカーは、そもそもミスをするスポーツです。ミスがなく流れるようにパスが回り、ゴールが生まれるから歓声が上がります、感動を呼ぶのです。誰もが目指すところですが、実際にはなかなかうまくいかず、そのために練習を繰り返すのです。試合は、練習の成果を出す場です。それまで積み重ねた力を皆さんに見てもらおう場です。だから緊張もします。相手もいることから、ままならないことが多いのです。

だいたい指導者が、サッカーそのものの「そもそも」を知っていれば、子どもたちが上手くプレーできたことを褒めることはあっても、ミスしたことに対して仮に悔しさを表現しても、罵声を浴びせるなどないはずです。ミスは、次の練習で改善できればいいのです。それを指導するのが指導者なのですから。罵声を浴びせることこそ、子どもたちをリスペクトしていないことであり、発する言葉そのものに差別や偏見を含めているのではないのでしょうか。

さて、今回は審判についてです。審判も絶対ではありません。残念ながらミスもします。ただ、ミスをしないよう努力しています。審判というのは、私も Jリーグ開幕時に副審を担当していましたが、場の経験が必要です。最初から、完璧にジャッジできる人はいません。様々な経験をして、信頼を得られる審判になっていきます。そのためには、やはり経験が必要なのです。



岡田 泉 副会長

ぜひ、改めて「サッカー競技規則」を読んでみてください。審判がいないと試合は成立しないのです。だからと言って、特別な存在ではないのです。両チームの選手がルールを順守するよう導き、お互いの力を出し切って結果を出すためのサポートをしているだけです。そのために正確なジャッジをしなければなりませんし、ケガも防がなければなりません。サッカーの仲間として、安全に試合が終わるのを見届ける責任を持っているだけなのです。

ですから、審判に対して、選手から、ベンチから、さらに観客から暴言が出てくるのがおかしいのです。確かにミスはします。残念ながら、完璧に見て判断できる審判はそうはいません。いないから、トップレベルには VAR が導入されたのです。もっと審判を理解してほしいと思うのです。もっと、審判を経験してほしいのです。審判をすることによって、その大変さや偉大さ、さらにはその楽しさを味わうことができ、理解が深まると思うのです。

振り返りますと、2017 年に横山謙三前 SFA 会長が「試合中 文句を言わない!」と掲げました（SFA NEWS 88 号参照）。決して、審判を対象にしたものではありません。ありませんが、今一度、この言葉を SFA として掲げ、スポーツモラルの向上を目指したいものです。サッカーに関わる「仲間」のスポーツモラルが向上すれば、審判にも余裕が出てくるでしょう。素晴らしいレフェリングをしてくれる審判が増えてくることでしょ。そういう環境になれば、「審判もいいな」と思ってくれる子どもたちが出てきてくれると思うのです。埼玉県から、選手だけでなく、審判が世界に羽ばたいてくれることを切に願っています。

第17回埼玉県第4種サッカーリーグ・選手権大会 ヴィオレタフットボールクラブが初優勝!

昨年4月から県内全域で「埼玉県第4種サッカーリーグ戦」が開催され、参加448チームが52ブロックに分かれて実戦を積み重ねてきました。そして各ブロック1位が集う「埼玉県第4種選手権大会」が11月23日に開幕、12月10日に準決勝と決勝を迎えました。今大会、躍進を続けたヴィオレタフットボールクラブが大宮アルディージャU12との決勝戦をPK戦の末に制し、見事に初優勝を遂げました。

主催 (公財) 埼玉県サッカー協会
主管 (公財) 埼玉県サッカー協会第4種委員会
後援 埼玉県／NHKさいたま放送局／テレビ玉 FM NACK5／埼玉新聞社

協賛



特別協力 URAWA REDS



決勝 ヴィオレタフットボールクラブ vs 大宮アルディージャ U12



準決勝 大宮アルディージャ U12 エクセレントフィート FC

F.C.VELSA	0	1	東松バレーニアフットボールクラブジュニア
ヴィオレタフットボールクラブ	5	6	レアル狭山FC
FC arco iris m	0	4	ブライドFC
豊春サッカークラブ	1	3	八潮メッツジュニアサッカークラブ
GRANDE FOOTBALL CLUB U-12	0	0	エクセレントフィートFC
上尾朝日フットボールクラブスポーツ少年団	4	0	江南南サッカー少年団 ブルーベリー
宮原サッカーガールズ	0	3	上尾NEOフットボールクラブ
川鶴FC	2	0	川口本町SA
すみれFC Norte jr	0	6	青木中央少年サッカークラブ
浦和レッドダイヤモンズジュニア	9	2	ちくみキッカーズ
熊谷さくらスポーツ少年団	0	3	山口サントスサッカークラブ
1FC川越水上公園	4	2	あけぼのFC
Aitoku ReeM Football Club	0	0	HFCスポーツ少年団
DIPLMATS	0	1	レジスタFC
江南南サッカー少年団 アップル	5	2	浦和ラホージャフットボールクラブジュニア
ダイナモ川越FC	0	7	Saitama east SV U-12
ベラーダジュニアーズ	2	8	勝瀬ふじみ野サッカークラブ
川口アイシンク少年サッカー	0	0	REDONODO FC
NEOS Football Club	0	0	大宮アルディージャU12
朝志ヶ丘サッカー スポーツ少年団	2	2	プレジールスポーツクラブジュニア
安行フットボールクラブ	1	0	北坂戸サッカークラブ
FCアビリスタ	0	0	飯能ブルーダーズジュニア
FC鶴ヶ島	3	3	浦和大牧サッカースポーツ少年団
ESPIRITO深谷 ジュニア	1	0	M・S・Cサッカークラブ
長鶴サッカー少年団	0	2	FC LIEN
さいたまシーノースフットボールクラブ	1	2	新座片山フットボールクラブ少年団



準決勝 ヴィオレタフットボールクラブ vs さいたまシーノースフットボールクラブ



優勝したヴィオレタフットボールクラブ

大会記録●県内大会

2種

高円宮杯 U-18 サッカーリーグ 2023 埼玉県 S1 リーグ

順位	チーム	勝点	勝	分	負
1	正智深谷	39	12	3	3
2	昌平セカンド	36	11	3	4
3	武南	32	10	2	6
4	成徳深谷	30	8	6	4
5	浦和南	30	9	3	6
6	聖望学園	24	7	3	8
7	武蔵越生	23	7	2	9
8	市立浦和	15	4	3	11
9	浦和学院	14	4	2	12
10	埼玉栄	13	4	1	13



正智深谷高校



正智深谷 vs 昌平セカンド

令和5年度第102回全国高等学校サッカー選手権大会埼玉県大会 決勝トーナメント

10月8日～11月14日 埼玉スタジアム2002他

武南	2	3	1	正智深谷
武蔵越生	1	2	0	川口市立
市立浦和	2	1	2	聖望学園
西武台	0	1	0	川越東
埼玉平成	1	1	0	狭山ヶ丘
細田学園	2	1	1	埼玉栄
昌平	2	7	1	立教新座
			2	浦和南

※昌平は6度目の優勝



優勝 昌平高校



決勝 昌平 vs 浦和南

3種 中体連

令和5年度新人体育大会 兼 第36回県民総合スポーツ大会 兼 第33回テレビ埼玉旗争奪サッカー大会

11月2日～11月14日 埼玉スタジアム2002他

さいたま南浦和	2	2	1	川越城南
朝霞第一	1	5	4	さいたま宮原
東松山松山	1	1	2	春日部
埼玉栄	4	1	1	立教新座
さいたま土合	0	0	0	さいたま東浦和
狭山中央	1	0	5	聖望学園
川口南	0	4	5	さいたま内谷
伊奈南・伊奈	0	3	0	鶴ヶ島南

※聖望学園は初優勝



優勝 聖望学園中学



決勝 聖望学園 vs さいたま南浦和

クラブ

第33回 埼玉県クラブユース(U-15)サッカー選手権大会

9月30日～11月30日 荒川総合運動公園他

浦和レッズ	3	5	1	大宮アルディージャ
ペレーニア	1	3	0	アヴェントゥーラ
草加Jr	0	0	2	プレシール
ASAS	1	0	1	オーステン
アレクレ	0	3	0	クラブ与野
FCリアル	0	1	0	GRAMADO
CANTERA	1	3	2	コルージャ
カリオカ	3	2	2	GRANDE

※優勝は大宮アルディージャU15

第33回埼玉県クラブユース(U-14)サッカー選手権大会
※年間を通じたリーグ戦。各グループの1位チームを紹介

グループ	チーム	勝点	勝	分	負
A	GRANDE	17	5	2	0
B	クマガヤ	21	7	0	0
C	武南Jr	16	5	1	1
D	プレジール入間	17	5	2	0
E	L-BLOOM	18	6	0	1
F	三郷Jr	21	7	0	0
G	CANTERA	15	4	3	0
H	1FC川越水上公園	21	7	0	0
I	セジニョ	18	6	0	0
J	INDEPENDIENTE	16	5	1	0

4種

JFA 第47回全日本U-12サッカー選手権大会埼玉県大会
10月22日～11月11日 埼玉スタジアム第3グラウンド

レジスタFC 3
ペラダジュニアーズ グリーン 1
FCリアル 1
KIDSPower.SC 2
ヴィオレータフットボールクラブ 3
NEOS Football Club ブルー 0
エクセレントフィートFC 1
浦和大牧サッカースポーツ少年団 0

大宮アルディージャU12 7
東松山ベレニアフットボールクラブジュニアA 0
HFCスポーツ少年団 0
F.C.VELSA 3
新座片山フットボールクラブ少年団 1
上尾朝日フットボールクラブスポーツ少年団A 0
浦和レッドダイヤモンズジュニア 1
1FC川越水上公園 BLUE 0

※エクセレントフィートFCは初優勝。準優勝の浦和レッズジュニアと共に本大会へ出場



優勝 エクセレントフィートFC



準優勝 浦和レッドダイヤモンズジュニア



決勝 エクセレントフィートFC vs 浦和レッドダイヤモンズジュニア

第36回県民総合スポーツ大会 兼
第52回埼玉県サッカー少年団中央大会

1月14日～2月4日 埼玉スタジアム第2グラウンド他

宮本サッカースポーツ少年団 1
小手指サッカースポーツ少年団 2
上尾NEOフットボールクラブスポーツ少年団 2
浦和三室サッカースポーツ少年団 3
上尾朝日フットボールクラブスポーツ少年団 5
川鶴FC 0
越谷サンシンサッカースポーツ少年団 1
ESPIRITO深谷ジュニア 0

新座片山フットボールクラブ少年団 4
にいざえすFCスポーツ少年団 0
FC Gois YANAKA 2
児玉ティバーチャFCスポーツ少年団 0
浦和大牧サッカースポーツ少年団 1
東松山ベレニアFCジュニアサッカー少年団 0
浦和上木崎サッカースポーツ少年団 0
江南南サッカー少年団アップル 3

※優勝は上尾朝日FCスポーツ少年団



優勝 上尾朝日フットボールクラブスポーツ少年団



決勝 上尾朝日フットボールクラブスポーツ少年団 vs 江南南サッカー少年団アップル

第18回埼玉県第4種新人戦中央大会

1月28日、2月11日 SFAフットボールセンター他

上尾朝日フットボールクラブスポーツ少年団 1
レジスタFC八潮 3
戸塚フットボールクラブジュニア 3
SUGITO UNITED FOOTBALL CLUB 0
さいたまシーノースフットボールクラブ 3
浦和上木崎サッカースポーツ少年団 1
東松山ベレニアフットボールクラブジュニア 2
江南南サッカー少年団 1

レジスタFC 0
川越福原サッカークラブ 1
三原フットボールクラブ 0
カムジュニア千代田 8
FCチベッタ深谷 1
上尾NEOフットボールクラブ 2
NU広谷サッカークラブ 1

※優勝はレジスタFC



優勝 レジスタFC



決勝 レジスタFC vs 東松山ベレニアフットボールクラブジュニア

女子

第16回会長杯 兼 第45回埼玉県女子サッカー選手権大会

12月3日～12月17日 埼玉スタジアム第2グラウンド他

東京国際大学	1	3
1FC川越水上公園メニーナ	5	0
白岡SCレディース	2	0
武蔵丘短期大学	1	0
大東文化大学	9	1

※優勝は東京国際大学



優勝 東京国際大学



決勝 東京国際大学 vs 武蔵丘短期大学

大会記録●県外大会

1 種 大学

JR 東日本カップ2023 第97回関東大学サッカーリーグ戦 1 部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
10	東京国際大学	15	4	3	15
12	大東文化大学	13	3	4	15

JR 東日本カップ2023 第97回関東大学サッカーリーグ戦 3 部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
1	城西大学	47	15	2	5
8	平成国際大学	27	8	3	11
11	共栄大学	14	3	5	14

2023年度 第56回 関東大学サッカー大会

10月28日～11月25日 関東各地

順位	チーム	勝点	勝	分	負
1	国際武道大学	9	2	3	0
2	帝京大学	8	2	2	1
3	尚美学園大学	8	2	2	1
4	朝鮮大学校	5	1	2	2
5	上武大学	5	1	2	2
6	大東文化大学	4	1	1	3

※優勝した国際武道大学は関東大学 3 部に昇格。2 位、3 位は「2023 年度 3 部参入プレーオフ決定戦」に出場



尚美学園大学 vs 大東文化大学

2023年度 3部参入プレーオフ決定戦

12月3日 関東各地

中央学院大学 (3部10位)	2 - 1	尚美学園大学 (関東大学サッカー大会3位)
共栄大学 (3部11位)	0 - 0	帝京大学 (関東大学サッカー大会2位)

※尚美学園大学はノルテに、共栄大学は 3 部に残留

2 種

高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 EAST

順位	チーム	勝点	勝	分	負
7	昌平高校	26	7	5	10
9	大宮アルディージャU18	23	6	5	11



昌平 vs 柏レイソル



昌平 vs 大宮アルディージャU18

高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 プレーオフ

12月8日 エディオンスタジアム広島

1回戦 徳島ヴォルティスユース 5 - 5 浦和レッズユース (2PK4)

12月10日 広島広域公園第一球技場

2回戦 帝京長岡高校 2 - 1 浦和レッズユース

高円宮杯JFA U-18サッカープリンスリーグ2023 関東 1 部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
2	浦和レッズユース	38	11	5	2

高円宮杯JFA U-18サッカープリンスリーグ2023 関東2部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
4	西武台高校	30	9	3	6



西武台 vs 桐蔭



2 回戦 昌平 vs 米子北



1 回戦 昌平 vs 奈良育英

高円宮杯JFA U-18サッカープリンスリーグ2023 関東2部 リーグ参入戦

12月16日、18日 ト伝の郷運動公園
1回戦 正智深谷 0－1 ジェフ市原
※プリンスリーグ関東2部に昇格したのは、前橋商業とジェフ市原

高体連

第102回全国高校サッカー選手権大会

12月28日～1月8日 国立競技場他
1回戦 昌平 7－0 奈良育英
2回戦 昌平 1－1 米子北 (4PK3)
3回戦 昌平 2－2 大津 (5PK4)
準々決勝 青森山田 4－0 昌平
※優勝は青森山田



準々決勝 昌平 vs 青森山田



3 回戦 昌平 vs 大津

3種

高円宮杯JFA 第35回全日本U-15サッカー選手権大会

12月16日～27日 味の素フィールド西が丘他
1回戦 大宮アルディージャU15 3－1 ロアッソ熊本ジュニアユース
2回戦 大宮アルディージャU15 2－0 ガンバ大阪門真ジュニアユース
準々決勝 サンフレッチェ広島F.Cジュニアユース 0－3 大宮アルディージャU15
準決勝 柏レイソルU-15 0－1 大宮アルディージャU15
決勝 鹿島アントラーズジュニアユース 3－2 大宮アルディージャU15
※優勝は鹿島アントラーズジュニアユース

高円宮杯JFA 第35回全日本U-15サッカー選手権大会 関東大会

11月11日～19日 関東各地
●Aブロック
1 回戦 坂戸ディプロマッツ 4－0 FC. Kanaloa
三菱養和SC巣鴨JY 5－1 新座市立第二中学校サッカー部
ジェフユナイテッド市原・千葉 1－0 A.C.アスミジュニアユース
2 回戦 クラブ・ドラゴンズ柏 U-15 1－0 坂戸ディプロマッツ
●Bブロック
1 回戦 水戸ホーリホック 1－3 クマガヤSSC
FC古河 1－1 東松山ベレーニア (1PK4)
FC ASAS上尾 0－3 ワセダクラブForza' 02
2 回戦 横浜F・マリノス追浜 1－3 クマガヤSSC
東松山ベレーニア 0－0 ワセダクラブForza' 02 (1PK3)
準決勝 FC東京U-15深川 4－3 クマガヤSSC
●Cブロック
1 回戦 VITTORIAS FC 1－2 クラブ与野
鹿島アントラーズつくば 10－1 VITORIA KAMUI
ウイングスSC 0－3 C.A.アレグレ
GRANDE FC 0－3 インテリオールFC
FC深谷 1－4 横河武蔵野FC
2 回戦 鹿島アントラーズ 3－1 クラブ与野
鹿島アントラーズつくば 2－2 C.A.アレグレ (4PK2)
GRANDE FC 1－2 横河武蔵野FC
●Dブロック
1 回戦 浦和レッズ 3－1 FC杉野
ヴァンフォーレ甲府 0－2 成立ゼブラ
アスブロンサ高崎 0－8 FC LAVIDA
2 回戦 浦和レッズ 1－2 FC厚木ジュニアユースDREAMS
成立ゼブラ 0－3 東急スレイエスFC U-15
VIVAIO船橋SC 0－5 FC LAVIDA
準決勝 東急スレイエスFC U-15 1－0 FC LAVIDA
※柏レイソルU-15、FC東京U-15 深川、鹿島アントラーズ、柏レイソル A.A.TOR' 82 が本大会へ出場

4 種

JFA 第47回全日本U-12サッカー選手権大会

12月26日～29日 白波スタジアム他

●グループC

エクセレントフィートFC 4-0 モンテディオ山形庄内
エクセレントフィートFC 7-2 フォルツァ松本
エクセレントフィートFC 1-1 FCリバース(愛媛県)

※エクセレントフィートFCはグループ1位で決勝ラウンドへ

●グループ

アッズーロ(滋賀県) 0-1 浦和レッズ
FCアロンザ(愛知県) 3-0 浦和レッズ
サガン鳥栖 0-1 浦和レッズ

※浦和レッズはグループ2位

●ラウンド16

エクセレントフィートFC 5-0 FC古河
準々決勝 エクセレントフィートFC 1-1 FCリバース(愛媛県)
(7PK8)

※優勝はソレシオン熊本

女子

皇后杯JFA 第45回全日本女子サッカー選手権大会

11月18日～1月27日 ヨドコウ桜スタジアム他

5回戦 三菱重工浦和レッズレディース 2-0 日体大SMG横浜
大宮アルディージャVENTUS 0-1 ちふれASエルフェン埼玉
準々決勝 三菱重工浦和レッズレディース 2-0 ジェフユナイテッド市原・千葉レディース
日テレ・東京ヴェルディベレーザ 0-1 ちふれASエルフェン埼玉
準決勝 INAC神戸レオネッサ 3-2 ちふれASエルフェン埼玉
三菱重工浦和レッズレディース 3-3 サンフレッチェ広島レジーナ
(4PK2)
決勝 三菱重工浦和レッズレディース 1-1 INAC神戸レオネッサ
(5PK6)

※INAC 神戸レオネッサは7年ぶり7回目の優勝

第29回関東女子サッカーリーグ1部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
6	東京国際大学	15	4	3	7

第29回関東女子サッカーリーグ2部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
7	大東文化大学	12	4	0	10
8	1FC川越水上公園メニーナ	6	2	0	12

第30回関東女子サッカーリーグ・2部参入トーナメント大会

1月6日 ひたちなか総合運動公園

1回戦 白岡SCレディース 1-6 神奈川大学Legend2015

※帝京平成大学、山梨学院大学レッドサンダース、神奈川大学 Legend2015が関東2部に昇格

第37回関東大学女子サッカーリーグ戦1部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
10	東京国際大学	15	4	3	15
12	大東文化大学	13	3	4	15

第37回関東大学女子サッカーリーグ戦2部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
4	武蔵丘短期大学	31	10	1	7
5	尚美学園大学	30	9	3	6

第37回関東大学女子サッカーリーグ戦3部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
3	城西大学	31	10	1	3
5	文教大学	16	5	1	8

第27回関東女子ユース(U-18)サッカー選手権大会 兼

JFA 第27回全日本U-18女子サッカー選手権大会関東予選

10月21日～11月23日 緑新スタジアムYAITA他

1回戦 ちふれASエルフェン埼玉マリU-18 1-3 三菱重工浦和レッズレディースユース
茨城フットボールアカデミー 2-2 1FC川越水上公園メニーナ
(2PK4)

2回戦 三菱重工浦和レッズレディースユース 5-2 1FC川越水上公園メニーナ
準決勝 三菱重工浦和レッズレディースユース 2-2 ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-18
(3PK5)

※優勝は日テレ・東京ヴェルディメニーナ。三菱重工浦和レッズレディースユースを含む上位4チームが本大会へ出場

JFA 第27回全日本U-18女子サッカー選手権大会

1月3日～8日 J-GREEN堺

1回戦 三菱重工浦和レッズレディースユース 2-4 INAC神戸レオネチーナ

※優勝はセレッソ大阪ヤンマーガールズU-18

第32回関東高等学校女子サッカー選手権大会 兼

第32回全日本高等学校女子サッカー選手権大会関東予選

11月11日～19日 押原公園他

1回戦 修徳 2-1 昌平
花咲徳栄 3-0 宇都宮短大付属
2回戦 星槎国際 4-0 花咲徳栄
敗者復活 花咲徳栄 0-3 流通経済大学付属柏
7位決定戦 宇都宮文星 2-1 花咲徳栄
※優勝は修徳。上位7チームが本大会へ出場

JFA U-15女子サッカーリーグ2023 関東1部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
1	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース	36	11	3	0
3	INAC白岡SCレディース	22	6	4	4

JFA U-15女子サッカーリーグ2023 関東2部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
1	ちふれASエルフェン埼玉マリU-15	33	11	0	1

高円宮妃杯 JFA 第28回全日本U-15女子サッカー選手権大会

12月9日～27日 味の素フィールド西が丘他

1回戦 朝日インテック・ラブリッジ名古屋スターチス 2-1 INAC白岡SCレディース
三菱重工浦和レッズレディースユース 1-1 JFAアカデミー福島
(2PK4)
ちふれASエルフェン埼玉マリU-15 1-3 藤枝順心サッカークラブジュニアユース

※優勝はJFA アカデミー福島

シニア

KTFA 第17回関東O-40サッカー大会

12月2日、3日 ひたちなか市総合運動公園

●B組 セレソン所沢40 5-0 FC鹿島Senior
図南SC グランデ 1-0 セレソン所沢40
浦安シニアFC 1-3 セレソン所沢40

※セレソン所沢40はグループ2位で3位決定戦へ

3位決定戦 西湘Wings.FC 1-3 セレソン所沢40

※セレソン所沢40は3位

JFA 第24回全日本O-60サッカー大会関東地区予選会

11月25日、26日 さくらスタジアム他

●B組 埼玉シニア60 3-1 とち丸シニアSC
湘南コンパニョ 0-2 埼玉シニア60
ドリーム水戸シニア 0-0 埼玉シニア60

※埼玉シニア60はグループ1位で優勝決定戦へ

優勝決定戦 T Dreams-60 0-0 埼玉シニア60
(4PK2)

※埼玉シニア60は準優勝

JFA 第18回全日本O-70サッカー大会関東予選会

12月2日、3日 清瀬内山運動公園

●Aブロック 埼玉シニア70 3-1 山梨シニア70
神奈川イースト70雀 0-3 埼玉シニア70
Super Infinito de Cero 2-0 埼玉シニア70
埼玉シニア70 3-0 茨城シニア70

※埼玉シニア70はグループ2位で3位決定戦へ
3位決定戦 **埼玉シニア70 3-0** 茨城シニア70
※埼玉シニア70は3位。優勝した Super Infinito de Cero (東京都) は
本大会へ出場

フットサル

第25回関東フットサルリーグ 2部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
9	Cuervo埼玉	10	3	1	7
11	AOH Futsal Club	6	2	0	9

LUXPERIOR CUP 第7回関東大学フットサルリーグ 2023

順位	チーム	勝点	勝	分	負
2	東京国際大学体育会サッカー部	30	10	0	2
5	城西大学体育会サッカー部	20	6	2	4

得点王／ベスト5 樋口 海成 (東京国際大学)

JFA 第29回全日本フットサル選手権大会 関東大会

1月20日～28日 武蔵野の森総合スポーツプラザアリーナ他
1回戦 **城西大学体育会サッカー部 2-3** 府中アスレティックFC
※優勝はリガーレヴィア葛飾。上位5チームが本大会へ出場

JFA 第29回全日本U-15フットサル選手権大会 関東大会

11月25日～12月3日 千葉県立館山運動公園体育館
●グループC
フウガドールすみだウイングス **4-3** FFCエストレラ川口 U15
FFCエストレラ川口 U15 **0-5** FCクラッキス松戸
※ FFC エストレラ川口 U15 はグループ3位。優勝したマルバ茨城 FC
U15 と準優勝のフウガドールすみだウイングスは本大会へ出場

第14回関東女子フットサルリーグ 2023

順位	チーム	勝点	勝	分	負
6	Ambition	15	5	0	4

JFA 第20回全日本女子フットサル選手権大会 関東大会

1月7日～13日 富士見市立市民総合体育館
1回戦 **祭(埼玉第2代表) 0-4** 流経大メニーナ龍ヶ崎
さいたまサイコロ 4-2 湘南フットサルクラブペローダ
Ambition(埼玉第1代表) 1-1 タバジータ世田谷
(3PK4)
準々決勝 **さいたまサイコロ 4-1** タバジータ世田谷
準決勝 **さいたまサイコロ 0-5** フウガドールすみだレディース
※優勝はフウガドールすみだレディース。上位2チームは本大会へ出場

JFA 第14回全日本U-15女子フットサル選手権大会 関東大会

11月25日～12月3日 千葉県立館山運動公園体育館
1回戦 **INAC白岡SCLレディース U-15 2-4** 十文字中学校
※優勝した十文字中学校は本大会へ出場

インフォメーション ～技術委員会より～

2024年度「国民スポーツ大会」に向けて

2024年、佐賀県で開催される本大会(9/21～25)より、名称が「国民体育大会」(国体)から「国民スポーツ大会」(国スポ)へと変更されます。今大会におけるサッカー競技は、毎年開催される「少年男子」「少年女子」(共にU16)と隔年開催される「成年女子」の3種目が開催されます。

■「少年男子」※トレセンスタッフ

U16 男子トレセンダイレクター 大森健司(草加高校)
U16 男子トレセンサブダイレクター 平尾信之(浦和東高校)
U16 県トレセンリードコーチ(監督) 上田健爾(細田学園高校)
同アシスタントコーチ 吉田健太(浦和レッズ)
同アシスタントコーチ 久津間岳文(川越南高校)
同アシスタントコーチ 渋谷荒馬(深谷南中学校)
同 GK (GP) コーチ 本田祐樹(春日部東高校)
トレーナー 加藤一夫(西大宮病院)

■「少年女子」※トレセンスタッフ

U16 女子トレセンダイレクター 長谷川暁雄(久喜高校)
U16 女子トレセンサブダイレクター 堀 達也(川口市立高校)
U16 県女子トレセンリードコーチ(監督) 石塚智之(アスレンテ加須)
同アシスタントコーチ 高峯祐一郎(飯能高校)
同アシスタントコーチ 山口真奈(浦和工業高校)
同 GK (GP) コーチ 小川圭輔(大宮アルディージャ VENTUS)
トレーナー 圓山和也(入間テクニカル鍼灸整骨院)
アドバイザーコーチ 神戸慎太郎(浦和レッズレディース)

■「成年女子」※スタッフ

成年女子ダイレクター 長谷川暁雄(久喜高校)
成年女子サブダイレクター 小椋 大(南稜高校)
埼玉県成年女子監督 石津遼太郎(東洋大学)
なお、関東ブロック大会は山梨県にて、少年男子と成年男子は8/10、11に、少年女子は8/17、18に開催されます。組み合わせは決まり次第、SFA 公式ウェブサイトなどに掲載いたします。

【指導者講習会】開催予定

■ D 級コーチ指導者養成講習会 ※今年度は1日コースとなります。

- ① 6/9 (日)
- ② 6/23 (日)
- ③ 7/27 (土)
- ④ 9/1 (日)
- ⑤ 11/24 (日)
- ⑥ 1/12 (日)

- ⑦ 2/2 (日)
 - ⑧ 3/16 (日)
- ※追加の日程は、決まり次第、SFA 公式ウェブサイトなどに掲載いたします。

■ C 級コーチ指導者養成講習会

- ① 5/4 (土)～5/6 (月)、5/11 (土)・12 (日)、5/25 (土)・26 (日)、6/8 (土)
- ② 6/29 (土)・30 (日)、7/6 (土)・7 (日)、7/13 (土)・14 (日)、7/20 (土)・21 (日)
- ③ 8/3 (土)・4 (日)、8/10 (土)・11 (日)・12 (月)、8/17 (土)・18 (日)、8/24 (土)・25 (日)
- ④ 9/7、9/14、9/28、10/5、10/12、10/26、11/2、11/16
- ⑤ 9/8、9/15、9/29、10/6、10/13、10/27、11/3、11/17
- ⑥ 2/15 (土)・16 (日)、2/22 (土)・23 (日)、3/1 (土)・2 (日)、3/8 (土)、3/15 (土)

※③コースは暑熱対策のため、午後からの開催となります
※④コースは土曜日のみ、⑤コースは日曜日のみの開催です

■ B 級コーチ指導者養成講習会

2024年度より、従来の週末コースに加え、平日コースも開催することになりました。ただし、2024 年度の申し込みは終了しております。
2025年度のコース受講を希望される方は、事前に「B ライセンスワークショップ」を受講ください(4 回開催のいずれか)。「ワークショップ」を受講された方のみ、「B 級コーチ指導者養成講習会」のご案内をさせていただきます。

■ 2024 年度「B ライセンスワークショップ」開催予定

7/29 (月)、9/16 (月・祝)、11/4 (月・祝)、12/7 (土)

■ GK L-1 養成講習会

1/18 (土)・19 (日)、25 (土)・26 (日)

その他研修会

■ A 級トライアル研修会

9/23 (月・祝)、11/30 (土)

■ ユース B 級トライアル研修会

12/8 (日)

■ リフレッシュ研修会

6/9 (日)、7/28 (日)、11/23 (土・祝)、12/14 (土)、12/15 (日)、1/11 (土)、2/1 (日)、3/16 (日)

◎いずれも、詳細に関しては4月以降のSFA 公式ウェブサイト、SFA 技術委員会ホームページなどでご確認ください。